

米の生産を保障する支援を！

民報

おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目59
Tel 24-2021
Fax 24-2049

日本共産党奥州市議団は、岩手県の農業再生協議会から、奥州市に令和7年産主食用米の生産目安が、当初の計画より増産できる枠が示されたことから、1月23日に農林部からその内容について聞き取り調査を行いました。

昨年の夏以降、全国的に米不足が顕著になり、米価の高騰が続いています。国は令和7年産主食用米の生産目安を683万トと昨年より14万ト増やしました。それに伴い、奥州市の生産目安も217万ト・1466ト増えました。

さらに「米不足によりふるさと納税の返礼品が急増し、オーストラリア輸出の注文増に対応できていない」など、現状が示されました。

市議団からは、令和6年産主食用米の実績面積と生産目安面積との差について質しました。

担当者は「実績面積は、生産目安面積より、246万ト少ない8797万トであった。水田活用交付金等で、収益が水田より良い大豆の作付けが増えたためと思われる」と述べました。

【主食用米生産目安】

	令和7年生産目安	令和6年生産目安	差
面積 ^{ヘクタール}	9,260	9,043	217
数量 ^{トン}	50,929	49,463	1,466

※令和6年実績面積 8,797^{ヘクタール}

遊休農地が増えている

水田の作付面積減少は、令和5年産米までの米価低迷や農家の高齢化により、遊休農地が増えていることにも要因があります。

物価高騰で経営苦しい

6年産米の価格が上昇したことにより、農家の収入は増えました。しかし、この間の物価高騰で生産資材価格が上昇し、米生産農家の経営は厳しい状況が続いています。国による農家の戸別所得保障と農産物価格保障により、農業生産を安定させ、食料自給率を高めていくことが重要ではないでしょうか。



日本共産党
前衆議院議員
高橋ちづ子

1月26日



住みたい田舎ベスト1のまち
宮城県栗原市の未来を拓く
「新春のつどい」

4月に栗原市議選があります。定数3減のもと、現職の佐藤ふみお、おの久一、菅原ゆうき、の3人当選をめざします。オープニングは和太鼓GAKU。2組のファミリーで結成。すぐくパワフルでかっこいい！そして遠藤いくこ県議のジャズソングも♪

宮城県栗原市は、宝島社の「住みたい田舎ベストランキング」人口5万〜10万人部門で全国一位！3人の議員団は、ハコモノ建設ストッパー、子育て支援や暮らし福祉

の充実を図ってきました。昨年年末末期末手当における議員の役職加算率引き上げに反対、他会派も賛同から抜けるなどして提案を撤回させました。

たまたま今朝の河北新報に、栗原市の「ツーリズムネット」が地域再生の北海道東北賞を受賞と。自然、農業、観光、伝統文化、これも住みたい田舎につながりますよね。

住民要望の側溝整備始まる

令和5年7月、千田美津子県議（当時）に江刺広瀬の住民から、国道456号の側溝の未整備区間について、苦情が寄せられました。

同7月27日、千田美津子前県議と千葉敦市議は、県南広域振興局の担当職員とともに現地を調査し、整備を申し入れましたが、予算上すぐにはできない状況でした。令和6年12月に入り、ようやく側溝の整備工事（写真）が始まりました。一年以上経ちましたが、地域住民の願いが実現しました。

令和5年7月の現地調査



側溝工事が始まった現地

